

高松市総合教育会議

令和 5年 7月20日

地域と学校との 協働体制の強化について

～コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進～

教育局

生涯学習課・学校教育課

市民政策局

コミュニティ推進課

I はじめに

1 社会全体で子どもを育てる必要性について

社会情勢等の変化に伴い、学校・家庭・地域の課題が多様化・複雑化

◆学校における課題

- ・不登校児童生徒の増加
- ・教員の負担増
- ・自尊意識や規範意識の低下
など

◆家庭における課題

- ・子育てに対する不安や悩みの増加
- ・孤立しがちな家庭の増加 など

◆地域における課題

- ・地域における人間関係の希薄化
- ・地域の人材の高齢化
- ・若者の人口流出 など



学校・家庭・地域が単独ではなく、それぞれが連携・協働することで

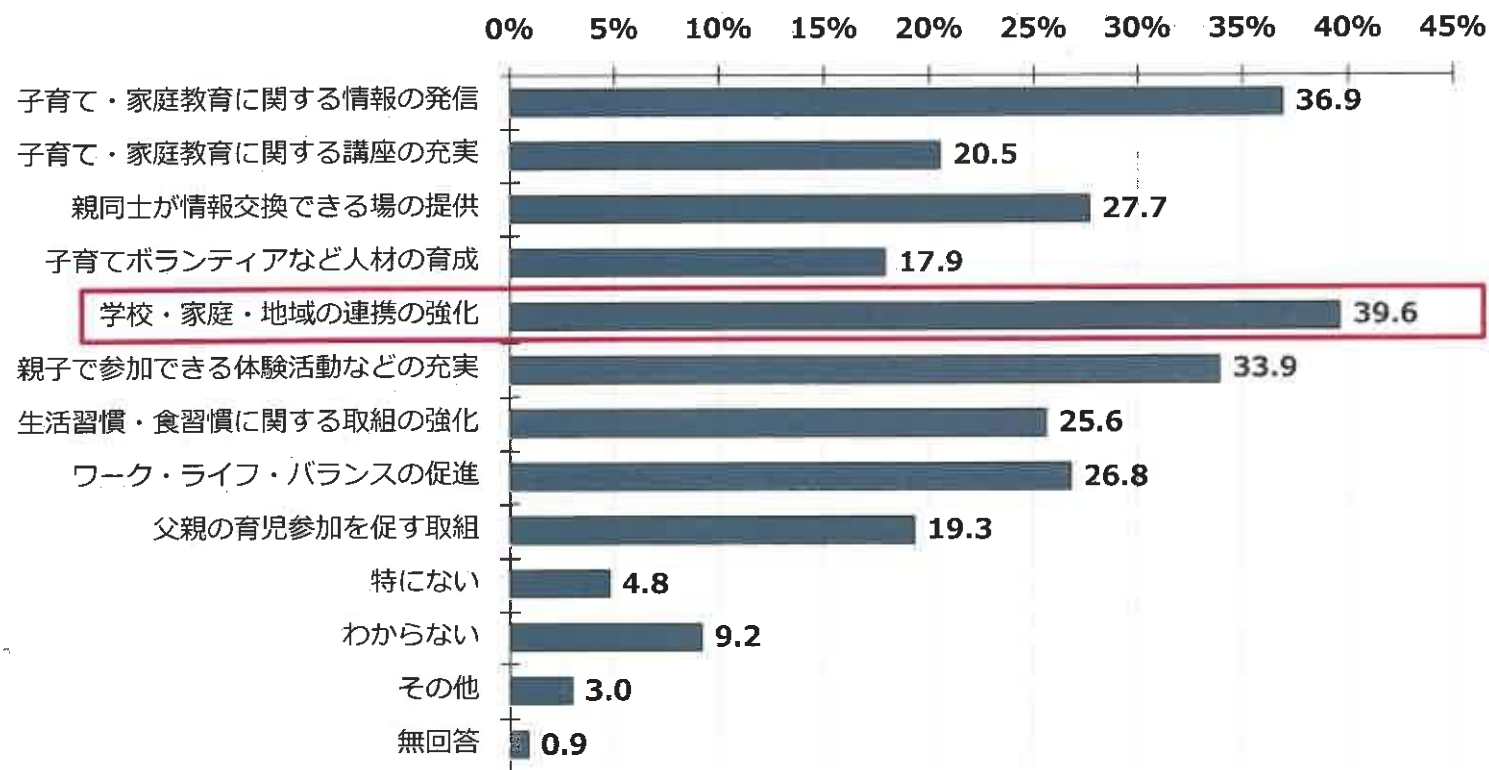
社会全体で子どもを育てる

ことが求められている。

I はじめに

2 市民の意識は？

【問】 家庭で子どもを育てるに当たって重要と考えることは？



家庭だけでなく、
学校・家庭・地域が
連携しながら子どもを
育てていくことが重要で
あると考えている人は
多い

(高松市生涯学習市民意識アンケート (R4年度実施))

I はじめに

3 地域と学校の連携・協働に関する国の動向

(1) 中央教育審議会における答申

平成27年12月、「新しい時代の教育や地方創生の実現に向け学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）」が取りまとめられる。

本答申において、地域と学校との協働体制について、「支援」から「連携・協働」、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」をめざすことの必要性が示されている。



(2) 「『次世代の学校・地域』創生プラン」の策定

平成28年1月、「一億総活躍社会の実現と地方創生の推進」のため、文部科学省において、「『次世代の学校・地域』創生プラン」が策定される。

これは、中央教育審議会における答申を推進していくために、具体的な施策と工程をまとめたものである。

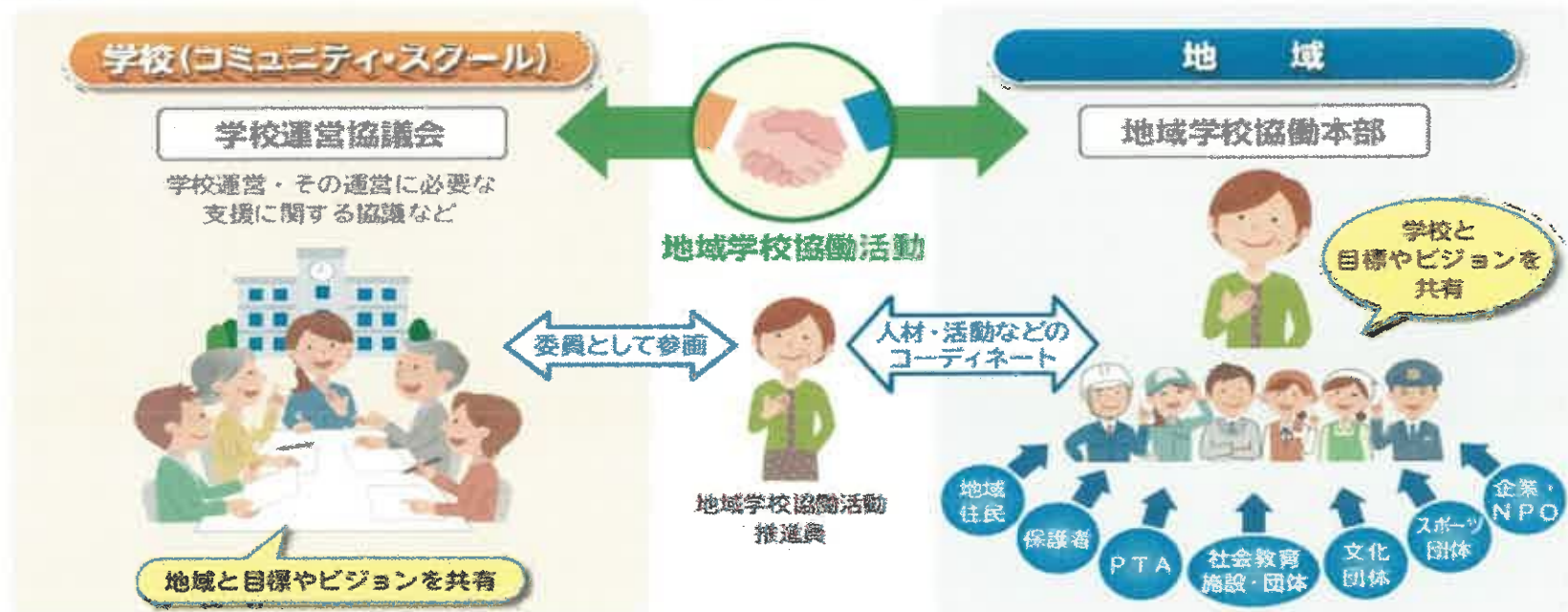


(3) 社会教育法の改正

平成29年3月、地域学校協働活動を実施する教育委員会が地域住民等と学校との連携協力体制を整備することや、地域学校協働活動に関し、地域住民等と学校との情報共有や助言等を行う「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する規定の整備が行われた。

I はじめに

4 社会全体で子どもを育てていくためのめざすべき姿



「地域とともにある学校づくり」

「学校を核とした地域づくり」

学校運営協議会と地域学校協働本部は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、**一体的に推進することで、相乗効果を発揮**し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待される。

(出典：これからの学校と地域 文部科学省)

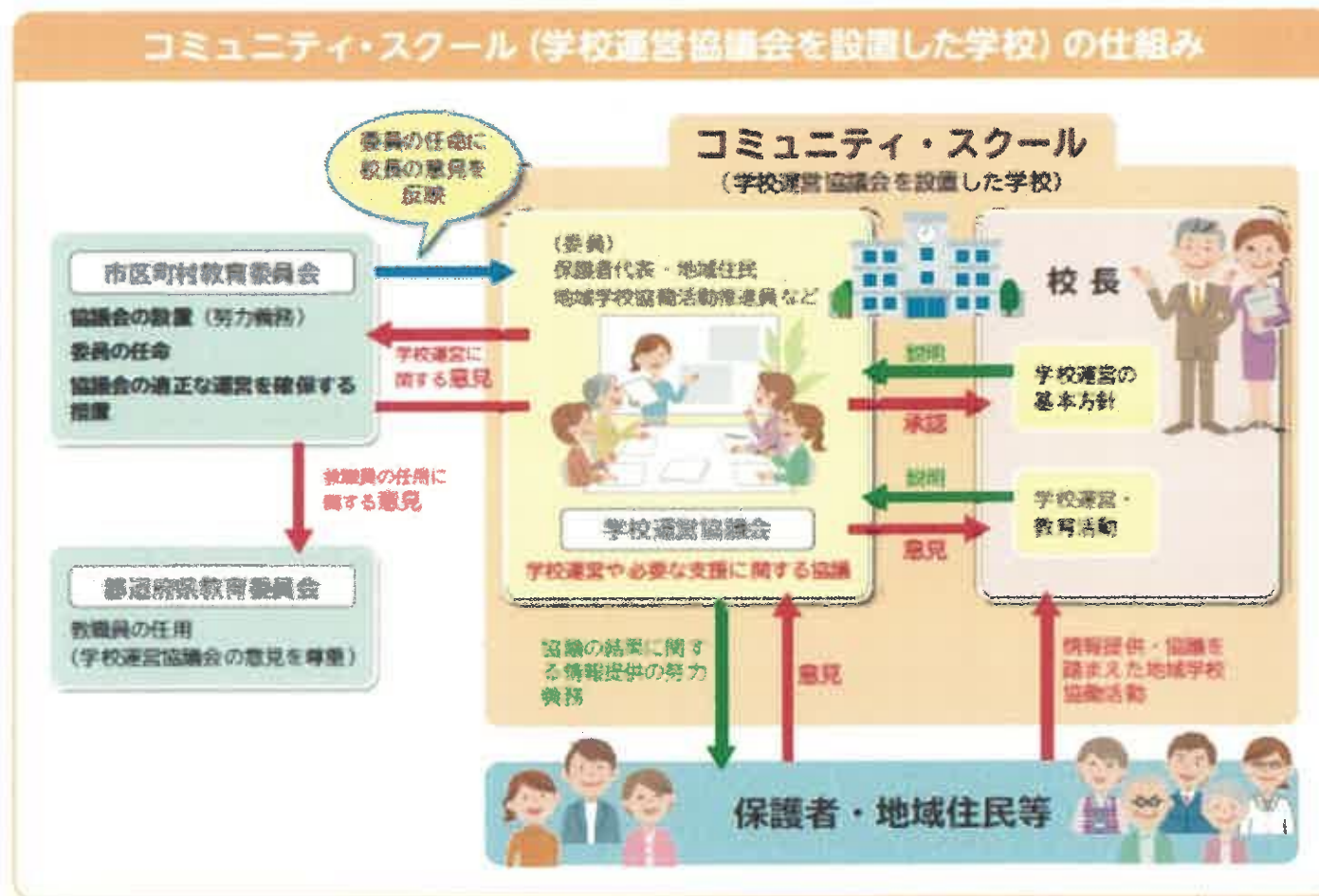
Ⅱ コミュニティ・スクールについて

1 コミュニティ・スクールとは？

定義

教育委員会によって任命された委員が、一定の権限を持って、学校の運営とそのために必要な支援について協議する合議制の機関（学校運営協議会）を設置している学校

※本市では、令和5年度から全ての市立小・中学校に「学校運営協議会制度」を導入済である。



(出典：これからの学校と地域 文部科学省)

Ⅱ コミュニティ・スクールについて

2 学校運営協議会の役割

- 校長が作成する学校運営の**基本方針の承認**をすること
- **学校運営**について、教育委員会又は校長に**意見を述べる**ことができること
- **教職員の任用に関して**、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に**意見を述べる**ことができること

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第47条の5 より)

Ⅱ コミュニティ・スクールについて

3 学校運営協議会制度導入により期待される効果

- 💡 組織的・継続的な体制を構築できる = 持続可能性
- 💡 皆が「当事者意識」をもって臨める = 社会総がかり
- 💡 目標・ビジョンを共有した活動ができる = 協働

Ⅲ 地域学校協働活動について

1 地域学校協働活動とは？

定義

幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして実施する活動

社会教育法第5条第1項13,14,15号（一部抜粋）

- ㊦ 放課後の学習活動（放課後子ども教室）等
- ㊦ 社会奉仕体験活動、自然体験活動 等
- ㊦ 学校支援活動
（学習・部活動等支援、環境整備等）等

放課後子ども教室



- ◆地域住民の参画を得て、放課後等に全ての児童を対象として行う、学習や体験・交流といった多様な活動

学校支援活動



- ◆登下校の見守り
- ◆花壇や通学路等の学校周辺環境の整備
- ◆授業の補助や部活動の支援 など

（出典：「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」文部科学省）

Ⅲ 地域学校協働活動について

2 地域学校協働活動を実施するメリットは？

(1) 子どもたちに期待される効果



(出典：「平成27年度地域学校協働活動に関するアンケート調査」文部科学省・国立教育政策研究所)

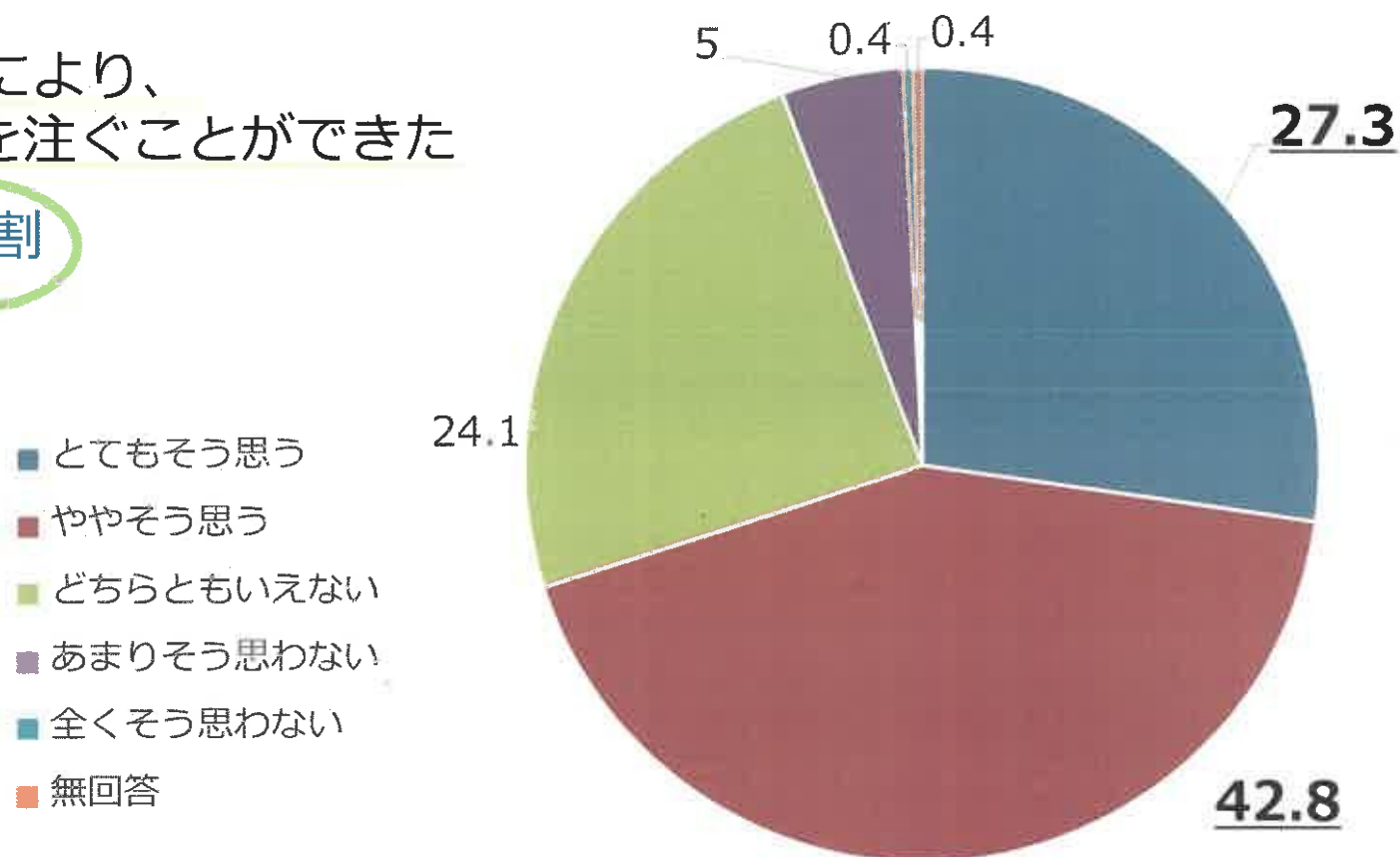
Ⅲ 地域学校協働活動について

(2) 学校・教職員に期待される効果

(単位：%)

地域住民の学校支援により、
教員が授業等に力を注ぐことができた

約 7 割



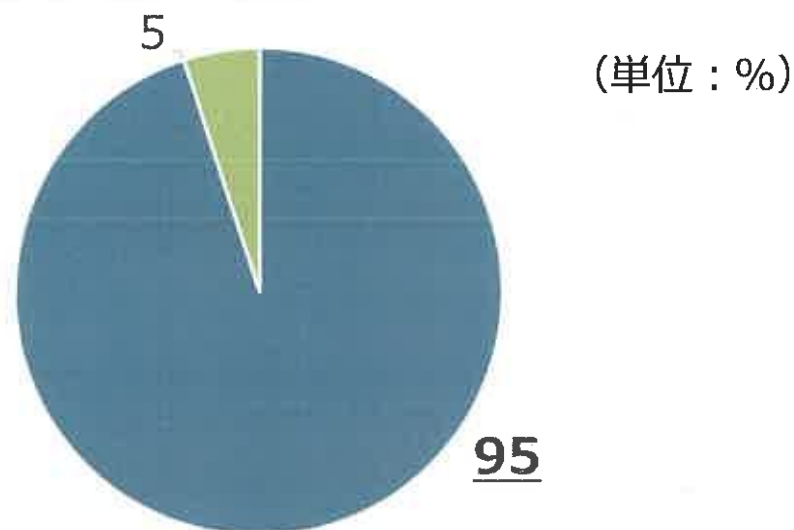
(出典：「平成27年度地域学校協働活動に関するアンケート調査」文部科学省・国立教育政策研究所)

Ⅲ 地域学校協働活動について

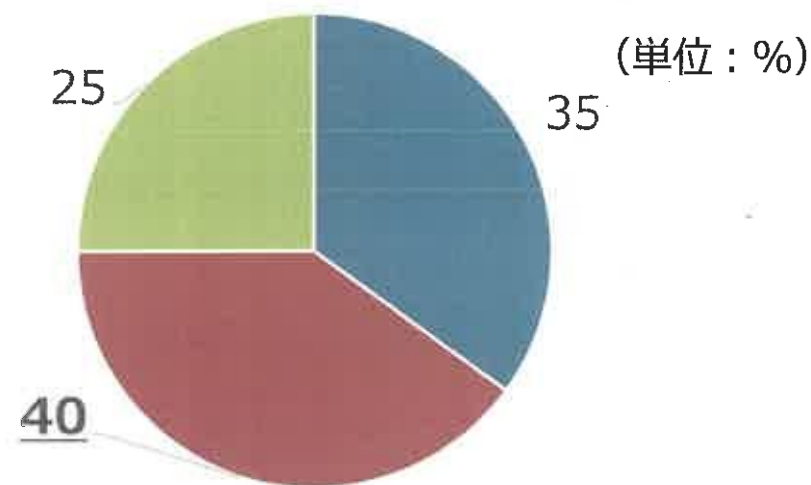
(3) 地域に期待される効果

東日本大震災時、避難所において自治組織が立ち上がる過程は順調だったか。

学校支援地域本部設置校



学校支援地域本部未設置校



■ 順調だった ■ 混乱がみられた ■ どちらともいえない

■ 順調だった ■ 混乱がみられた ■ どちらともいえない

※学校支援地域本部…地域が学校を支える体制

(出典：「地域学校協働活動パンフレット(令和元年7月)」p6

東日本大震災後の宮城県内の小中学校長40人へのアンケート調査(文部科学省調べ)より)

Ⅲ 地域学校協働活動について

3 地域学校協働活動を効果的に実施するために

(1) コーディネーターのイメージ



社会教育法第9条の7 教育委員会は、地域学校協働活動の円滑かつ効果的な実施を図るため、社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者のうちから、地域学校協働活動推進員を委嘱することができる。

(出典：つなGo！学校・家庭・地域（香川県教育委員会作成）)

Ⅲ 地域学校協働活動について

(2) コーディネーターの役割は？



【候補者になりうる方々】
○PTA関係者、PTA活動経験者
○退職した校長や教職員
○おやじの会などの団体等の関係者 など

👉 コーディネーターに求められる役割



- 地域学校協働活動の企画・立案
- 学校・住民・関係団体との連絡調整
- 地域ボランティアの募集・確保

👉 コーディネーターに求められる資質



- 地域学校協働活動に対する熱意・識見がある
- 地域住民、関係者をよく理解している
- 関係者を巻き込む力がある

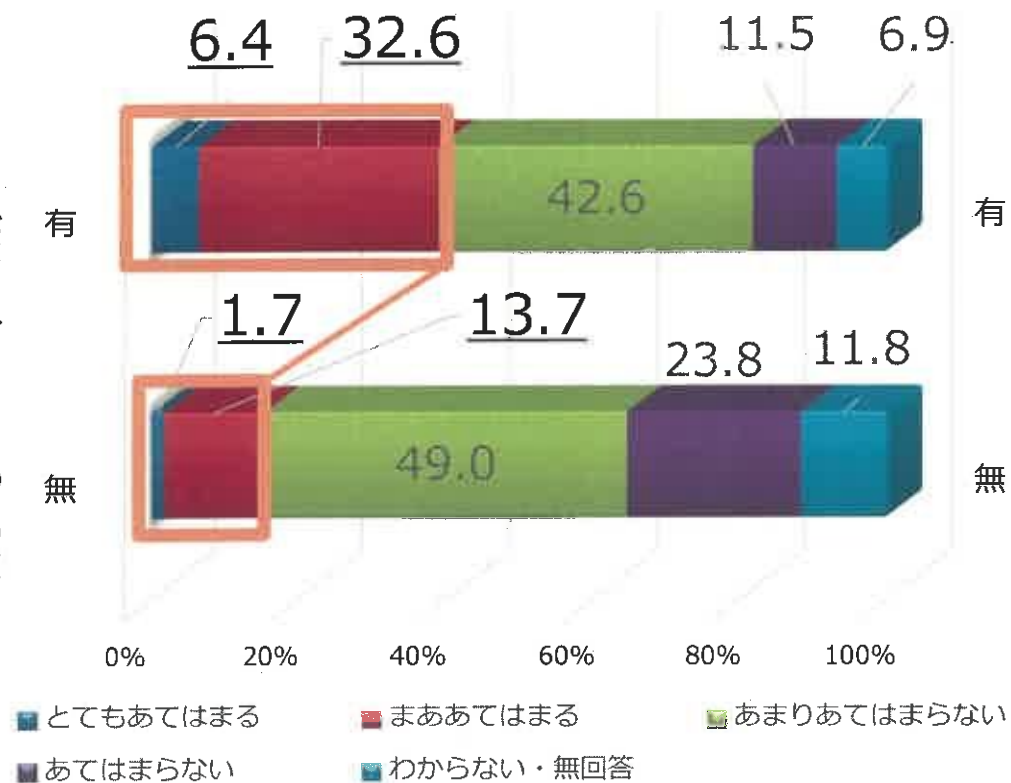
(出典：つなGo！学校・家庭・地域（香川県教育委員会作成）)

Ⅲ 地域学校協働活動について

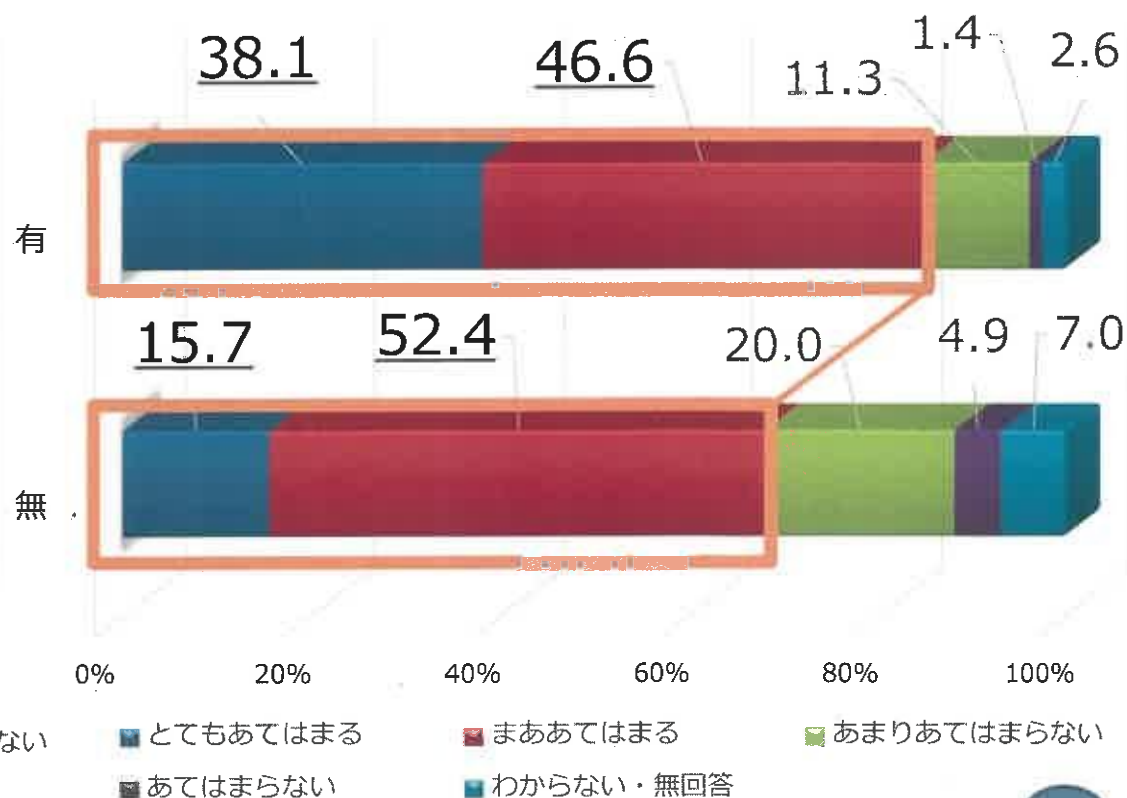
4 コーディネーターが配置されるメリット

●教職員が子どもと向き合う時間が増えた

コーディネーターの配置



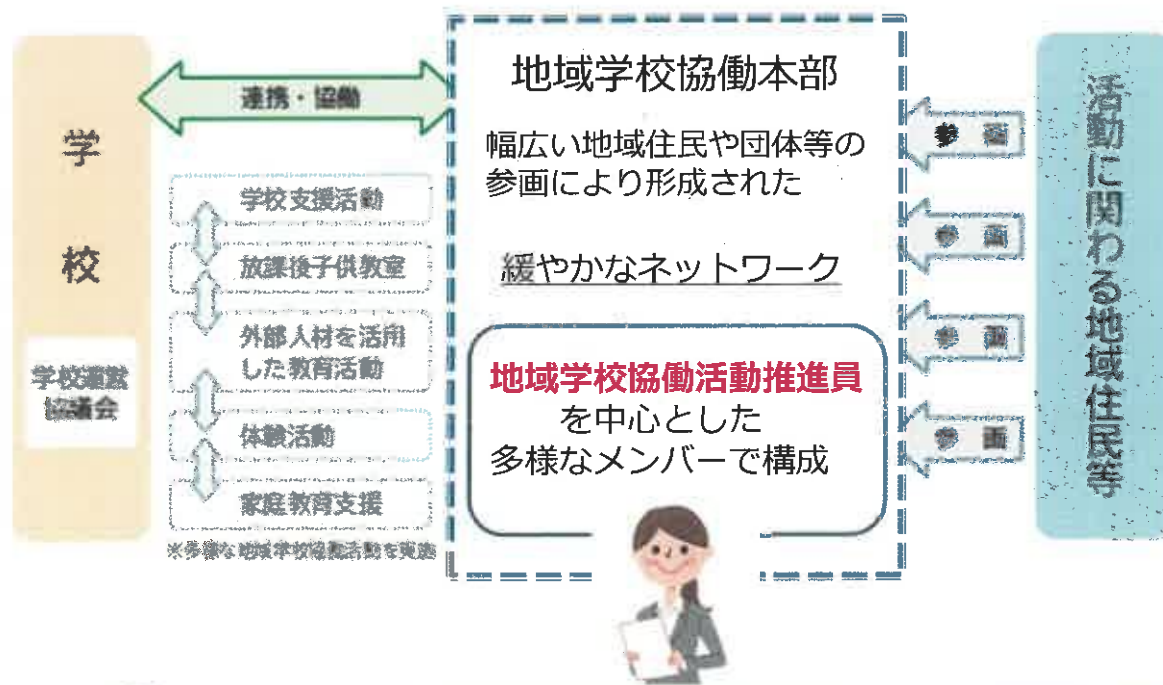
●地域と連携した取組が組織的に行えるようになった



(出典：令和2年度 「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究の実施」 成果報告Ⅱ)

Ⅲ 地域学校協働活動について

5 地域学校協働本部とは？



コーディネーターが配置されると、地域と学校のつながりが強化され、地域の様々な関係者を巻き込むことで、組織や世代を超えたネットワークが形成される

定義

法律上の定義はないが、

- ① **コーディネート機能**を有し、
- ② **多様な活動**を、
- ③ **継続的に**実施していることが要件とされている。

※地域学校協働本部が整備されている公立学校（幼稚園含む）
全国平均 57.9%
香川県 36.3%
(R4.5.1現在 文部科学省調べ)

Ⅳ 本市における地域学校協働活動について

1 本市における地域学校協働活動の現状

(1) アンケート調査（令和4年度実施）

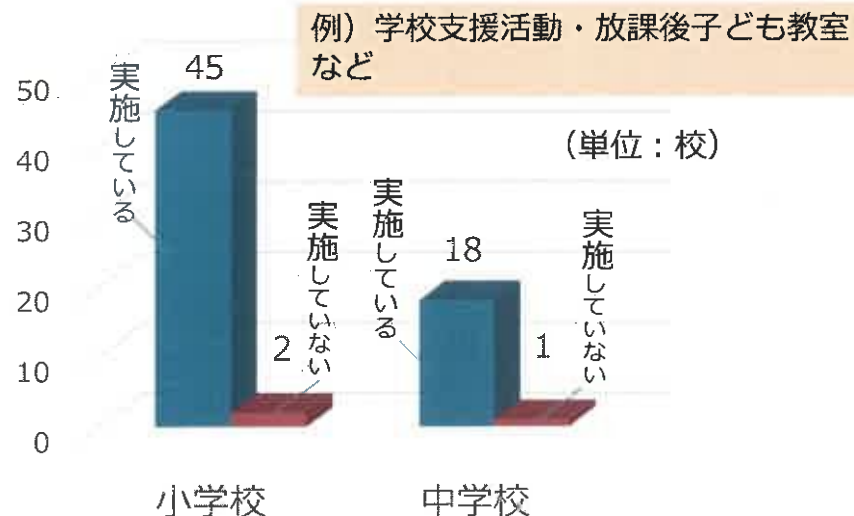
アンケート概要

調査対象：市立の小・中学校（69校）

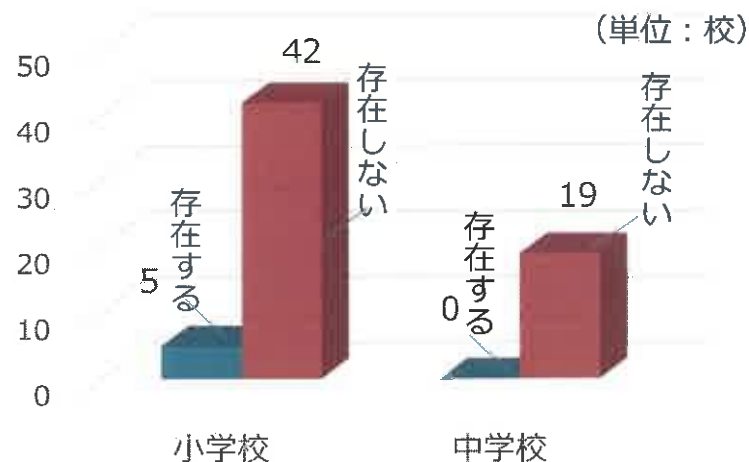
調査時期：令和4年7月

調査内容：地域と学校との協力体制に関すること

①地域と学校で連携して教育活動
などを実施していますか。

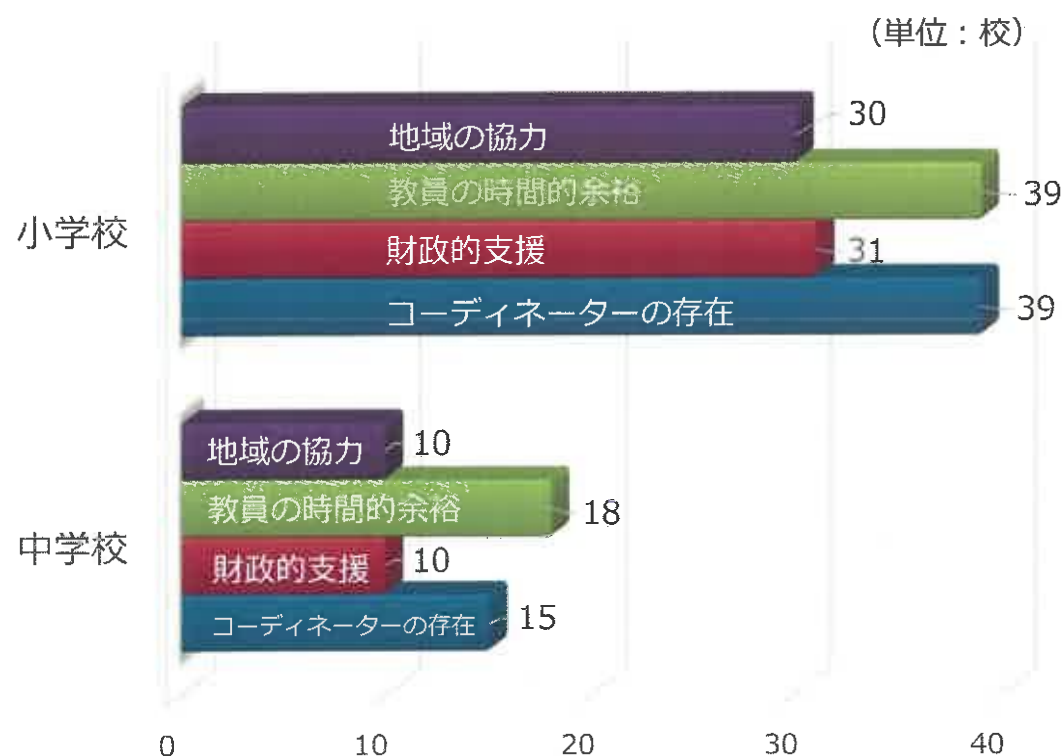


②地域と学校をつなぐコーディネーター
は存在しますか。



Ⅳ 本市における地域学校協働活動について

③地域と学校が協力していくために
必要な要素は何だと考えますか。（複数回答可）



④その他自由意見

- ・地域と学校双方に負担にならない手法を検討してほしい
- ・情報交換会やモデル校の紹介などしてほしい
- ・地域学校協働活動推進員の配置により学校の負担が軽減される
- ・コーディネーターを学校で人選するのが難しい
- ・現在協力してくれている団体はあるが、団体内の高齢化が進んでいることが心配である
- ・地域との交流を図るのは大切だが、その分教員の負担は増えることになる

Ⅳ 本市における地域学校協働活動について

(2) 聞き取り調査（R 5 年度実施）

① 地域と学校の連携・協働の現状

聞き取り調査の概要

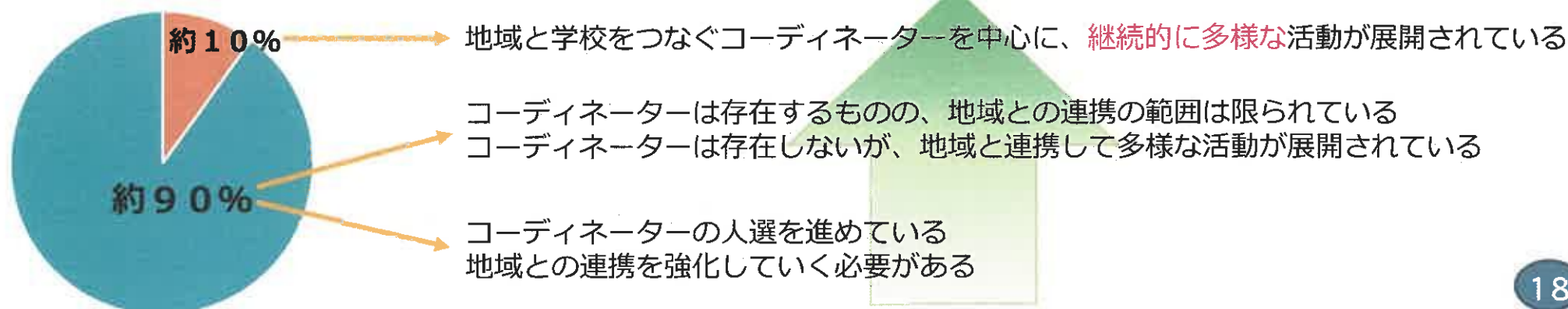
調査対象：市立の小学校 47（校）

調査時期：令和 5 年 5 月～ 7 月

調査方法：生涯学習課に配置した教育事務職員等が各校を訪問し、聞き取りを実施

調査内容：各校における地域との連携・協働の現状、認識している課題
地域との連携に関する教員の捉え方、支援が必要な項目 など

●市立の 47 校の現状（学校への聞き取り調査を基に教育委員会において分類）



Ⅳ 本市における地域学校協働活動について

② 地域との連携・協働に対する学校の声

	小学校からの意見等
地域との連携・協働を推進して良かった点など	●地域に新しいネットワークが生まれた。 ●コーディネーターが存在すると、地域の方との連絡・調整などについて、教員が異動になってもスムーズである。 ●子どもたちに学校教育だけでは得られない経験をさせてあげられた。 ●子どもたちが地域に対して愛着を持つようになった。
地域との連携・協働の推進に対する不安点など	●コーディネーターの人选方法が分からない。 ●他校における地域との連携・協働の事例を知りたい。 ●地域向けの説明会などをしてほしい。 ●地域の人材の高齢化が心配である。

Ⅳ 本市における地域学校協働活動について

(3) - 1 川東小学校の取組

令和4年度から『龍っ子フェスティバル』の開催を開始し、地域も学校もWin-Winに

【目的】 子どもたちのシビックプライドの醸成・主体性を高める、地域の活性化

【概要】 地域の文化祭と生活・総合の学習参観を同日・同地で『龍っ子フェスティバル』として初開催した。子どもたちはこれまでの「龍っ子学習」の成果を地域や保護者等に発信した。



(高松市立川東小学校提供)

Ⅳ 本市における地域学校協働活動について

(3) - 2 川東小学校の取組



フェスティバル参加者の声

●子どもからは

「中学生になってもボランティアとして参加し、地域を盛り上げたい」
「自分から声を掛けることで、地域の方と仲良くなれた」

●地域の方からは

「地域の中にしっかりと子どもを受け入れたい」
「大人になったら川東の良さを語ってほしい」

●保護者からは

「主体的に活動する子どもを見てうれしかった」
「親密な地元住民の目が届く教育は素敵です」



(高松市立川東小学校提供)

Ⅳ 本市における地域学校協働活動について

(4) - 1 古高松南小学校の取組

地域と学校の役割分担により、『古高松南地区、学校・家庭・地域をつなげる
地域合同防災学習』を成功に導き、防災意識向上の契機に

【目的】 家庭の防災意識の向上・地域の活性化

【概要】 令和3年度より学校と地域の協議を重ね、「参観を伴う防災学習」を学校、「体験」を地域と役割分担をして、4年度に、地域合同防災学習を共同実施した。



(高松市立古高松南小学校提供)

IV 本市における地域学校協働活動について

(4) - 2 古高松南小学校の取組

😊 地域合同防災学習参加者の声

●子どもからは

「自分にできることを考えていきたい」
「自助・共助・公助について考えることができた」

●保護者からは

「授業で学んだことを体験で実践にうつすことができて素晴らしい」
「今後も、防災訓練等に積極的に参加したい」

●地域でも…

「家庭での防災意識や共同参画意識を高められた」



(高松市立古高松南小学校提供)

V 今後の取組について

1 連携・協働の体制強化に向けたステップ

課題の把握

地域学校協働活動
の推進等

学校を核とした地域
の成熟

取組の
方向性

学校や地域等を対象に、丁寧に聞き取り調査を行いながら、学校と地域の連携の現状や課題を把握し、整理する。

市長部局と連携しながら、更なる体制の強化を図り、多様で継続的な協働活動が実施できるよう支援する。

学校・地域の実情に合わせた活動を展開することにより、学校を核とした「緩やかなネットワーク」が形成される。

想定される
取組

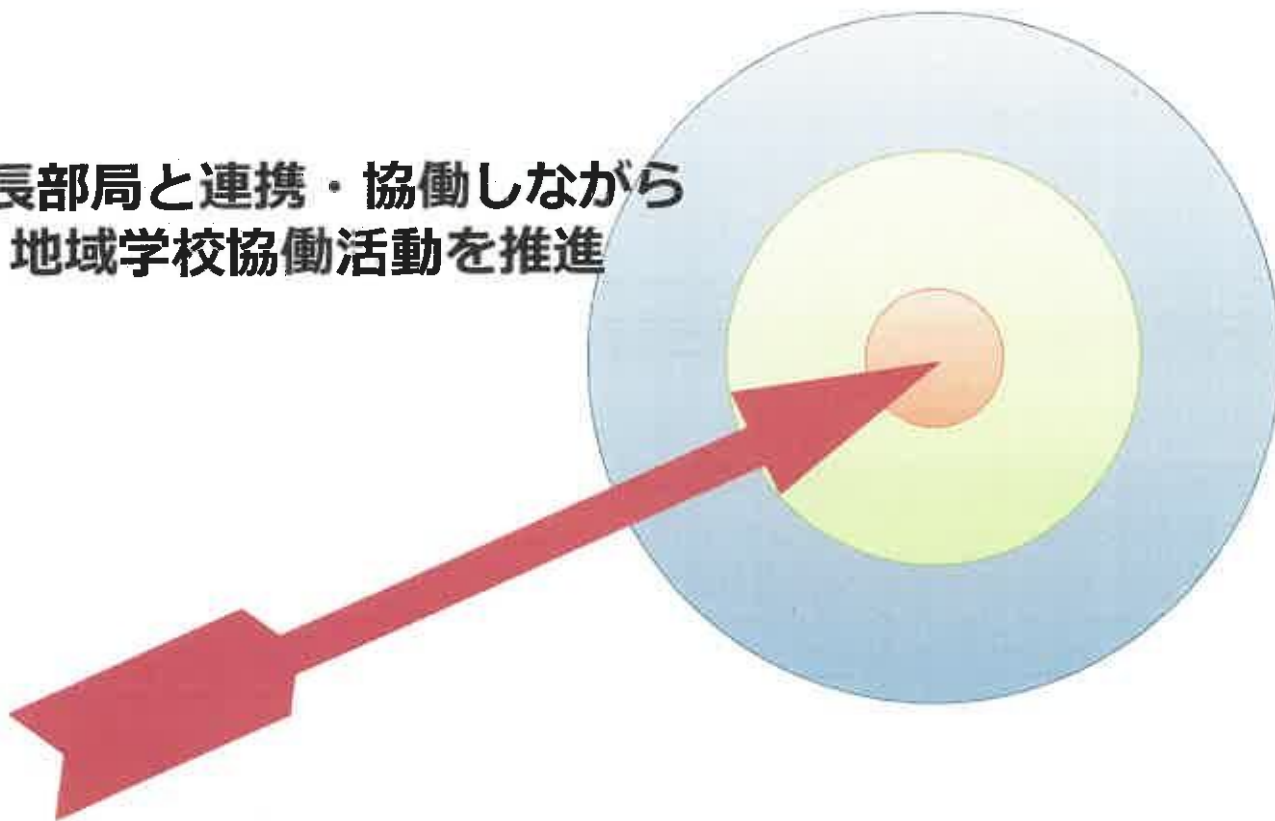
- ・ 学校訪問による聞き取り
- ・ 地域向け説明会の開催
- ・ コーディネーターへの聞き取り
- ・ 市長部局との情報交換

- ・ 地域における人材育成の支援（研修等の開催）
- ・ 学校、地域向け先導事例の発信
- ・ モデル校区における実践

V 今後の取組について

2 地域学校協働活動を推進すると…

市長部局と連携・協働しながら
地域学校協働活動を推進



- 地域の活性化
 - コミュニティの再生
 - シビックプライドの醸成
 - 若者の定住
- などにもつながる

V 今後の取組について

3 今後のスケジュール

年度	R 5												R 6						
	上半期						下半期												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3							
学校への聞き取り調査							 状況に応じて随時、学校訪問を継続												
市長部局との連携・協働							 随時、情報共有等												
地域向け説明会												 随時、地域向けに周知・説明							
先導事例の発表 (学校向け)								 校長会などを活用し発表											
コーディネーター 養成研修								 県が実施している研修なども活用											
地域や学校への支援 (情報発信・個別訪問等)								 あらゆる機会を捉えて、有益な情報を発信											

26

子どもたちのために 地域のために

